

「ルベーク積分講義」(初版第1刷) 正誤表

下記の誤りをお詫びして訂正いたします。

最終更新日 2004年4月5日

場所	訂正前	訂正後	訂正日
p.23, ↑1	脚注に次の文を追加: $\bigcup_{j=1}^{\infty} Q_j$ はいずれかの Q_j に属する点全体のなす集合 (問題 3.2 参照).		04/04/02
p.29, ↓4	可測集合	可測集合あるいはルベーク可測	04/04/02
p.30, ↑6	2次元ルベーク測度零集合	零集合	03/03/30
p.31, ↓6	c	c_n	04/04/02
p.63, ↓1	系 2.11'	系 3.9'	04/04/02
p.64, ↑9	零集合の和	零集合の差	03/03/30
p.155, ↑10	であり,	であり, $g(x_1, x_2)$ がルベーク可積分で	03/03/30
p.157, ↓7	開集合	G_δ 集合	04/04/02
p.181, ↓3~↓4	f	f_C	03/03/30
p.193, ↓3	小さく	近く	04/04/05
p.206, ↑8	$= s$ となる $s \in$	$= s$ となる $t \in$	03/03/30
p.208, ↓6	$x \in \mathbf{R}^2$	$x \in A$	04/04/05
p.212, ↑5	$\frac{\pi}{4}$	π	04/04/05
p.213, ↓8	直径	半径	04/04/05
p.213, ↓9	$d(B_i)^2$	$4^{-1}d(B_i)^2$	04/04/05
p.213, ↑8	$m_2^*(B_i)m_2(B_i) = (\pi/4)d(B_i)^2$	$m_2^*(B_i) = m_2(B_i) = \pi d(B_i)^2$	04/04/05
p.213, ↑6~↑3	$\frac{4}{\pi}$	$\frac{1}{\pi}$	04/04/05
p.214, ↓3	という数字が... のです.	この文は削除	03/03/30
p.217, ↑1, p.218, ↓1	測度	外測度	04/04/05
p.219, ↑1	... ある.	... ある. ここで $(d/2)! = \Gamma(d/2 + 1)$, Γ はガンマ関数.	03/04/03
p.224, ↑9~↑6	F	C	03/03/30
p.225, ↓7	すると,	します.	04/04/05
p.225, ↓11	$d(U_i)$	$d(U'_i)$	04/04/05
p.226, ↑1, ↑2	二つ目の a_2 を a_3 に		04/04/05
p.228, ↓2	$\neq \emptyset$	$= \emptyset$	03/03/30
p.229, ↓1	有界閉集合とする	空でない有界閉集合とする	03/03/30

次頁へ続く.

p.237, ↓3	半径	直径	04/04/05
p.237, ↑8	$\mu_{l_j}(K)$	$\mu_{\max\{l_1, \dots, l_N\}}(K)$	04/04/02
p.238, ↑4	\geq	$>$	04/04/02
p.239, ↑6	有界閉集合とする	空でない有界閉集合とする	03/03/30
p.244, ↓5	$(1 - \mu)E + \frac{1}{2}E$	$(1 - \mu)E + \frac{1}{2}\mu E$	03/03/30
p.253, ↓10	E_k	E_{k_ζ}	03/03/30
p.253, (16.5), p.254, (16.7)	$\sigma(\Omega \dots$ (注) σ^* は σ を定める $d - 1$ 次元ハウスドルフ外測度の定数倍 (注意 16.1 参照)	$\sigma^*(\Omega \dots$	03/03/30
p.317, ↓2	$A_i = G_i \cup N_i, G_i \cap N_i = \emptyset$	$A_i = G_i \setminus N_i, G_i \supset N_i$	03/03/30
p.317, ↓4	$= (G_1 \times G_2) \cup \dots$	$= G_1 \times G_2 \setminus ((G_1 \times N_2) \cup (N_1 \times G_2))$	03/03/30
p.323, ↓4	$s - 2$	$2 - s$	03/03/30
p.328, ↑5	付録 B	付録 C	03/03/30

有益なご注意, ご指摘をいただきました黒田成俊先生, 佐藤圓治先生に感謝いたします.